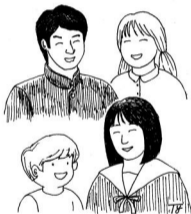


—2006年度—

明日を生きる

子どもたちのために



一宮市小中学校PTA連絡協議会
一宮市教職員組合

はじめに

保護者のみなさまと先生方のご理解とご協力により、2006年度「明日を生きる子どもたちのために」が、ここに発刊できる運びとなりました。

近年、社会環境や生活環境は高度情報化の進展に伴い大きく変化をしています。利便性や効率性を追求する変革のスピードがいっそう速くなり、子どもたちを取り巻く環境も変化の波に翻弄されています。子どもたちにかかわる事件や事故の報道も枚挙にいとまがありません。社会的な負の側面を報道する情報があふれる中において、子どもたちに明るい未来を指し示し、健全な成長を促すための環境を確保してゆくことが必要です。ITの技術革新はバーチャルリアリティによる疑似体験を可能にし、家庭用ゲーム機では子どもたちが仮想の空間へのめり込んでゆきます。しかし、人と人との触れ合いや喜びや悲しみを共感する感性を育てるためには、教育の現場と家庭や地域社会が連携して子どもたちに直に接していくことが大切であると感じています。

今年の7月には、「健全育成の会（父母と教師との教育対話集会）」を開催し、「子どもたちのために手を携え合って～伝え合い、励まし合い、支え合い～」というテーマのもと、活発な話し合いを行いました。また、9月には、「一宮 母と女性教師の会・文化講演会」を開催し、多数の保護者・教師の参加を得ました。講師の畑正東氏から、「動物も人も、成長する過程で一番つらいのは無視されることである。」と教えられました。何事にも愛する気持ちで対応することにより、動物も人も気持ちが和んでゆくというお話をたくさんしていただき、人と人との触れ合いの大切なことを改めて認識させられました。このような機会は、保護者と教師がともに子どもたちのことを真剣に考える場として、たいへん有意義であったと思います。

さて、2006年度「明日を生きる子どもたちのために」では、「やりがいや充実感を感じるとき」と題して、小学生・中学生・保護者・教師の考えや日ごろ感じていることを比較し、まとめました。すべての子どもたちが生き生きと輝き、楽しく毎日を通すごうことができるよう、私たち大人が今なすべきことは何かを考えるための一助となれば、幸いです。また、この冊子が、21世紀を生きる子どもたちの輝かしい未来のため、家庭・学校での教育をより充実させる資料として、広く活用されることを願ってやみません。

最後に、家庭・学校・地域が、子どもたちの現状そして未来を考え、ひとつひとつ努力を積み重ねていくことを確かめつつ、はじめの言葉とさせていただきます。

平成18年12月

一宮市小中学校PTA連絡協議会会長

村 橋 光 臣

目 次

明日を生きる子どもたちのために

I 学校生活の中で

- | | |
|--------------------------|---|
| ① 学校生活の中での楽しさややりがい | 1 |
| ② 学校に行きたくないとき | 3 |
| ③ 勉強でのやりがいや充実感 | 4 |
| ④ 学校行事でのやりがいや充実感 | 5 |
| ⑤ 部活動でのやりがいや充実感 | 6 |

II 自分を見つめて

- | | |
|----------------------|---|
| ① がんばったことについて | 7 |
| ② 気持ちをわかってくれる人 | 8 |

III 輝く明日に向かって

- | | |
|---------------------|----|
| ① 将来にむけての話し合い | 9 |
| ② 将来への希望 | 10 |
| ③ 夢や希望に向かって | 12 |

<アンケート実施者>

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|------------|
| ☆小 | 小学5年生 | ☆中 | 中学2年生 |
| ☆保護者 | 小5・中2の保護者 | ☆教師 | 小学校・中学校の教師 |



I 学校生活の中で

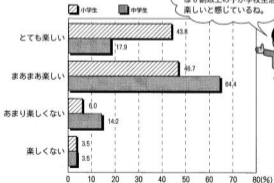
子どもたちは学校生活の中で、どんなことにやりがいや充実感を感じているのだろうか？

子どもたちは学校を楽しみにしているかな？

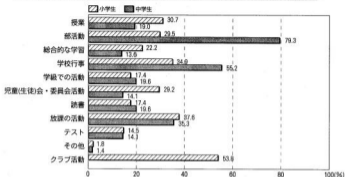


① 学校生活の中での楽しさややりがい

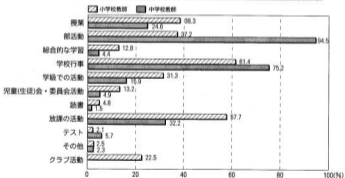
◆ 学校生活が楽しいですか。(小・中) ◆



◆ 学校生活の中で、何にやりがいや充実感を感じていますか。(小・中 複数回答) ◆



◆ 児童・生徒は、学校生活の中で、何にやりがいや充実感を感じていると思いますか。(小・中教師 複数回答) ◆



子どもたちは、クラブや部活動、学校行事にやりがいを感じている子が多いようです。集団で何かをやりとげることに喜びを感じています。友達とふれあって活動することが大切ではないでしょうか。



学校に行きたくない理由は何だろう？

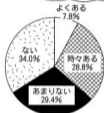


② 学校に行きたくないとき

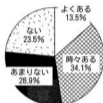
◆ 学校に行きたくないと思うときはありますか。(小・中) ◆



学校に行きたくないと思うときがある子がけっこう多いね。理由は何だろう。

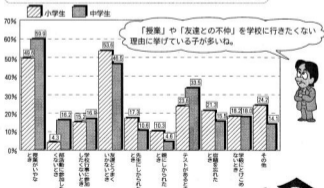


小学生



中学生

◆ 学校に行きたくないときはどんなときですか。(小・中 複数回答) ◆



「授業」や「友達との不仲」を学校に行きたくない理由に挙げている子が多いね。

学校生活を楽しく過ごすには、楽しい授業や友達との良好な人間関係が不可欠なようです。子どもたちが「楽しい。もっと受けたい」と思うような授業が求められています。



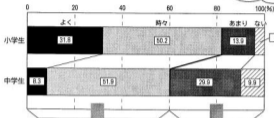


子どもたちは勉強にやりがいや充実感を感じているかな？

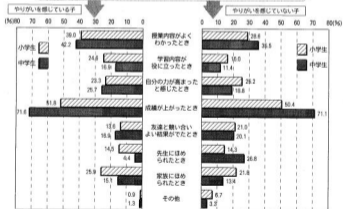
③ 勉強でのやりがいや充実感

◆ あなたは勉強にやりがいを感じていますか。(小・中) ◆

小学生では8割以上、中学生では6割の子が勉強にやりがいを感じている。



◆ 勉強してよかったと感じるのはどんなときですか。(小・中 複数回答) ◆



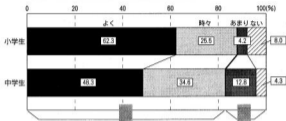
学習内容がよくわかったり、成績が上がったりしたときにやりがいを感じる子が多いようです。やはり授業で「わかった。」「できた。」という経験を積ませることが大切です。また、やりがいを感じていない子も、授業の内容を理解し、先生に認めてもらいたいと思っているようです。

子どもたちは学校行事についてどう思っているのだろう？



④ 学校行事でのやりがいや充実感

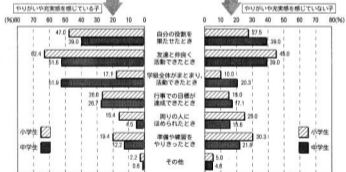
◆ あなたは学校行事（運動会、学習発表会、遠足、キャンプなど）にやりがいや充実感を感じていますか。（小・中）◆



8割もの子どもたちが学校行事にやりがいを感じているんだね。



◆ 学校行事に取り組んでよかったと感じたのはどんなときですか。（小・中 複数回答）◆



学校行事にやりがいを感じている子は、友達と仲良く活動できたときに充実感を感じています。行事は人間関係をよくしたり、学級全体のまとまりを高めたりするために大きな役割を担っています。行事に対してやる気を感じていない子も、「準備や練習をやりきってみよう」「周りの人にほめられたい」という気持ちをもっていきましょう。もっと活躍できるように支援することで、充実感を味わわせることができるのではないのでしょうか。

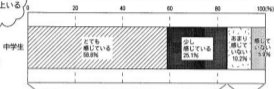


子どもたちは部活動についてどう思っているのだろうか？

⑤ 部活動でのやりがいや充実感

部活動にやりがいを
感じている子は、
8割以上いる
ね。

◆ あなたは部活動にやりがいや充実感を感じていますか。(中) ◆



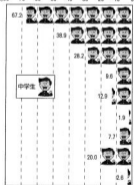
中学生



◆ 部活動に取り組んでよかったと感じたのはどんなときですか。(中 複数回答) ◆

やりがいや充実感を感じている子

(%) 80 70 60 50 40 30 20 10 0



中学生

やりがいや充実感を感じていない子

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)



中学生

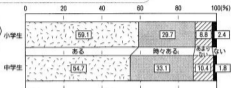
部活動にやりがいを感している子もいない子も、自分の技術が上達したときに取り組んでよかったと感じているようです。子どもに着実に力をつけさせることが自信となり、次のステップへのやる気を引き出させるのではないでしょう。

Ⅱ 自分を見つけて

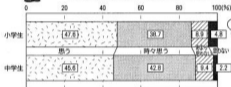
① がんばったことについて

◆ 目標に向かって、がんばったことがありますか。(小・中) ◆

小学生も中学生も8割以上の子どもががんばった経験をもっているね。



◆ がんばりが、その後の自分の成長に役立ったと思いますか。(小・中) ◆



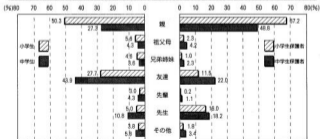
「あまりない」「ない」の回答をする子どもたちが気になるね。



がんばりが、成長に役立ったと感じている子どもは、「苦労しても、がんばろう。」という気持ちを持ち、再びがんばることができるのではないのでしょうか。子どもたちには、がんばりが報われる経験をさせたいものです。

◆ あなたががんばろうと思うときは、だれから励まされたときですか。(小・中) ◆

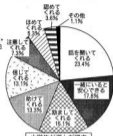
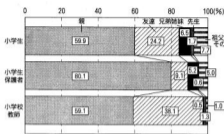
◆ あなたは、お父さんががんばろうと思うときは、だれから励まされたときだと思いますか。(保護者) ◆



小学生では「親」に励まされるとがんばろうと思う子が8割以上ですが、中学生になると「友達」の割合がふえます。やはり大人に近づくにつれ、親が考えている以上に同世代の友達との関係が一番心に響くようです。子どもを勇気づけ、励ますことで、子どもをすこやかに成長させたいと願っています。

② 気持ちをわかってくれる人

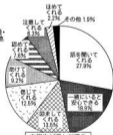
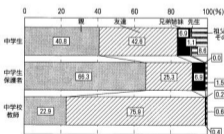
- ◆ 自分の気持ちをいちばん理解してくれるのはだれだと思いますか。(小学生) ◆
- ◆ お子さんの気持ちをいちばん理解してくれているのはだれだと思いますか。(保護者) ◆
- ◆ 児童が、自分の気持ちをいちばん理解してくれていると感じているのは、だれだと思いますか。(教師) ◆



話を聞いてくれる。励ましてくれる。信じてくれる。子どもたちにとって、自分の気持ちをわかってくれることが安心感につながっています。こうした接し方が子どもたちのがんばりを引き出すきっかけになるようです。



- ◆ 自分の気持ちをいちばん理解してくれるのはだれだと思いますか。(中学生) ◆
- ◆ お子さんの気持ちをいちばん理解してくれているのはだれだと思いますか。(保護者) ◆
- ◆ 生徒が、自分の気持ちをいちばん理解してくれていると感じているのは、だれだと思いますか。(教師) ◆

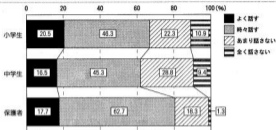


小学生が一番の理解者を親と考えていますが、中学生は同世代の友達や兄弟姉妹が多いことが、このグラフからわかります。親は、自分の子どものことをよくわかっていると思っていますが、子どもたちは友達をよき理解者と思っているようです。

Ⅲ 輝く明日にむかって

① 将来にむけての話し合い

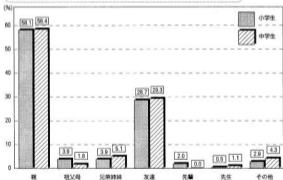
- ◆ あなたは、将来についてだれかと話をすることがありますか。(小・中) ◆
- ◆ あなたは、お子さんとお子さんの将来について話をすることがありますか。(保護者) ◆



将来についての話し合いをあまりしていない子が気になるね。



- ◆ あなたは、将来についてだれかと相談しますか。(小・中) ◆



子どもたちが、将来について最も話したいと思っているのは親のようです。子どもたちの一番身近にいる親が、子どもたちの将来に目をむけ、手を差し伸べることで、子どもたちの夢の実現につながるのではないのでしょうか。ほんのわずかな時間でも、子どもと向き合い、話をしてみてください。

② 将来への希望 (1998年のデータと比較・分析しました)

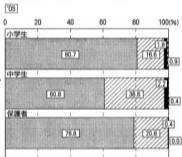
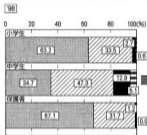


子どもたちは、将来についてどのように考えているのだろうか？

- ◆ あなたは、将来次のような希望をもつことが、どの程度大切だと思いますか。(小・中) ◆
- ◆ あなたは、お子さんにとって将来に次のような希望をもつことが、どれくらい大切だと思いますか。(保護者) ◆

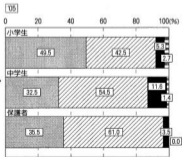
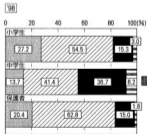
●健康で美しい家庭をつくりたい

■ とても大切 ▨ 大切 ■ あまり大切でない □ 大切でない



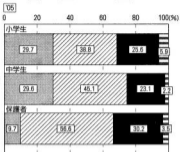
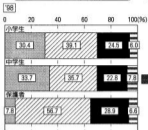
●社会や人のために役立ちたい

■ とても大切 ▨ 大切 ■ あまり大切でない □ 大切でない



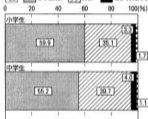
●自分の思ったとおりに生活したい

■ とても大切 ▨ 大切 ■ あまり大切でない ▩ 大切でない



●参考：やりがいのある仕事に就きたい

■ とても大切 ▨ 大切 ■ あまり大切でない ▩ 大切でない

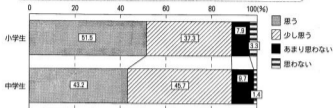


以前の小中学生と比べて、自分のやりたいことにむかってすすんでいき
たい子どもが増えてきているようです。また、将来に「やりがい」とい
うことを意識するようになっていきます。そして、その「やりがい」として求
めるものに、社会や人のために役立つことや健康で楽しい家庭をつくるこ
とを望んでいます。

家庭や人のために尽くしたいと思う気持ちが、子どもたちの将来へのエ
ネルギー源になっているようです。

③ 夢や希望にむかって

◆ あなたは、将来の夢や希望にむかってがんばれると思いますか。(小・中) ◆

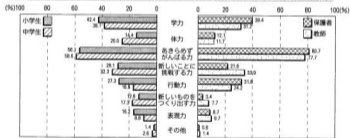


夢や希望にむかって、がんばりたいという子が多いね。



中学生になると、その思いが薄らいでいっているのが心配だなあ。

- ◆ あなたは、将来の夢や希望にむかって、どんな力をつけたいと思いますか。(小・中 複数回答) ◆
- ◆ お子さんに将来の夢や希望にむかって、どんな力をつけてほしいと思いますか。(保護者 複数回答) ◆
- ◆ 児童・生徒に将来の夢や希望にむかって、どんな力をつけさせたいと思いますか。(教師 複数回答) ◆



小・中学生ともに「あきらめずがんばる力」をつけたいと考えている子どもが多いようです。また、「学力」をつけることが、自分の将来の夢にむけて必要だと感じているようです。

中学生になると、「行動力」や「表現力」が必要だと考えはじめるところが小学生と違ってきます。自分の夢が具体的になってきているからではないでしょうか。

少しずつ未来にむかって歩んでいる子どもたちが夢や希望を実現させるために、私たち大人が子どもたちの支えとなり、よりよい未来の担い手を育てていきたいものです。



あ と が き

「明日を生きる子どもたちのために」は、学校や家庭生活における子どもたちの意識や実態、保護者、教師の意識をあきらかにすることを目的として編集されてきました。

“子どもたちがやりがいや充実感を感じるのはどんなときなのか” “やりがいや充実感が得られず消極的になってしまうのはどんなときなのか”

今回は、子どもたちの「やりがいや充実感」に焦点を当て、アンケート調査を行い、分析しました。また、1998年のデータと比較し、意識の変化についても検証しました。

今後も私たち教師は、保護者とより一層の共通理解を図りながら、教育活動をすすめていく必要があります。子どもたちを励まし勇気づけ成長させていくために、この冊子が少しでも役立つことを願っています。

なお、この冊子を作成するにあたって、保護者ならびに児童・生徒の皆様、先生方にはアンケート調査にご協力いただき、ありがとうございました。編集委員一同、心よりお礼申し上げます。

2006年12月

一宮市立奥中学校
山田 貴士

「明日を生きる子どもたちのために」編集委員

太田 崇 (浅井北小)	田辺 正幸 (大和東小)
松本 歳範 (萩原中)	米奥 正恵 (起小)
土川 昌大 (千秋南小)	出納 綾子 (南部中)
森 一寿 (尾西第一中)	芳賀 康臣 (大徳小)
河合 洋一 (丹陽中)	萩野 靖浩 (今伊勢中)
前田真希子 (木曾川中)	山田 貴士 (奥中)

アンケート有効回答者

小学5年生	1,325人	保護者	1,254人	(42校)
中学2年生	655人	保護者	616人	(19校)
小学校教師	796人	中学校教師	475人	

<表紙のことば>

仲間がいるから元気が出る。
仲間がいるから心が安らぐ。
輝く子どもたちの明日を願って…

表紙デザイン 山田 貴士

2006	明日を生きる子どもたちのために
編集発行	一宮市小中学校PTA連絡協議会 一宮市教職員組合
印刷所	緑メディアポート
	2006年11月印刷
	2006年12月発行